

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	特別養護老人ホームにおける抗認知症薬 (メマンチン塩酸塩) 内服に伴う生活活動改善効果の評価に関する追跡調査
演者名	原口雅臣 1) 赤間ひろみ 2) 千葉秀二 2) 三浦ひとみ 2) 佐藤愛 2)
所属	1) 医療法人みやび会 いずみ往診クリニック 2) 地域密着型特別養護老人ホーム 栗生ハウス

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告      2. 症例シリーズ報告      3. コホート研究 4. 症例対照研究      5. 調査研究      6. 介入研究      7. 二次研究 8. 質的研究      9. その他研究	NO.
		6

目的

抗認知症薬であるメマンチン塩酸塩が中等度～高度アルツハイマー型認知症と診断された患者の生活活動度に及ぼす改善効果を、施設独自のアセスメントシートを用いた評価から今後の薬剤選択の指標となるか否かを検討する。

方法

特別養護老人ホームの入居者を対象として、倫理的な規約に則り理解可能な場合は本人あるいはその家族へ薬剤使用に了解を得た 5 名 (メマンチン塩酸塩投与群) と従来の抗認知症薬のみ継続の 5 名 (メ非投与群) の計 10 名を無作為に選択する。調査期間を平成 26 年 8 月より 10 月までの 3 か月間とし、投与前より 1 か月単位で施設が作成したアセスメントシートや長谷川式スケールを用いて入居者全員の生活活動度を介護士の目で評価していく。薬剤の副作用の出現を症状や採血検査の結果から判断する。1 か月毎のアセスメントシートの評価に基づき、生活活動度の改善がメマンチン塩酸塩投与群から得られたかを考察する。

結果

メマンチン塩酸塩投与群では、ほぼ全員で生活活動度の低下に大きな影響を起す事は認められず、特に中等度では高度の場合と比較して生活活動度および長谷川式スケール何れも改善が図れている事が判明した。しかしメマンチン塩酸塩投与群では、誤って転倒による骨折を起こされたり、入居者の強い意向 (判断) で投与量が通常量の半量止まりとなったケースもみられた。

考察

終の棲家として認知症患者も多く受け入れる施設においては、介護を行う上で、生活背景・性格・投薬内容全般を把握しておかなければならない。地域包括ケアシステムが施設内においても周知徹底されるために介護士あるいは医療従事者との間の連携用ツールが必要となってくる。認知症の診断では従来使用されてきたスケールだけでは生活活動度の評価を下す事が困難であり、今回施設独自で作成・使用したアセスメントシートが生活全般ばかりか、抗認知症薬を継続していく可否を判断する上での大きな要素となる事が評価できた。